千葉県千葉農業事務所

普及だより

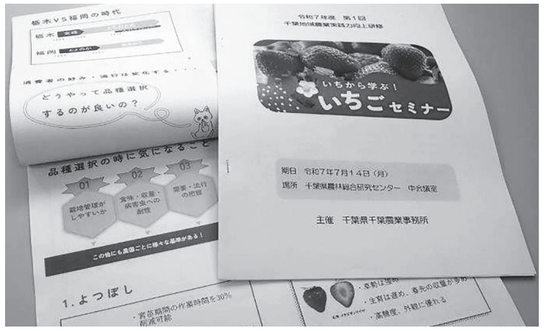
URL https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chiba/

【第159号】 2025年12月1日
発　行：千葉農業事務所改良普及課
千葉地域農林業振興普及協議会
千葉市緑区大金沢町180-1
千葉県農林総合研究センター気付
千葉農業事務所
TEL043（300）0950
FAX043（293）2710

ワークショップで活発に意見交換する参加者達

女性農業者がいきいきと働くために
～いちから学ぶ！いちごセミナー（農業実践力向上研修）の開講～

女性農業者は結婚を機に就農する場合が多く、学習や仲間づくりの場が少ない傾向にあります。そこで当農業事務所では、栽培の基礎を学び、女性農業者同士のつながりを作るため、いちごの経営に携わり始めて間もない8名を対象に、令和6年度から農業実践力向上研修を開催しています。



研修で用いた資料

令和6年度はいちご栽培の基本や病害虫対策、農薬の使い方を学ぶとともに、ワークショップで交流を深めました。

本年度は第1回を7月14日に開催し、主な品種の特徴や管理方法の違い、環境制御の基本についての講義を行いました。また、いちごの販売に関する課題について情報交換し、解決策を考えるワークショップを実施しました。参加者からは、「講義で学んだ知識を品種ごとの管理方法の改善に生かしたい」「いろいろな人の話を聞けてよかった。SNSやロゴを活用してみたい」といった感想が出され、自分の経営の改善を考えるきっかけを得たようでした。

今後は、加工や販売で特徴的な県内の経営体の視察を予定しており、各自が目指す経営が実現できるよう、引き続き技術力と経営能力を高めるとともに、仲間作りが進むような研修を実施していきます。

令和6・7年度 指導農業士・農業士 新規認証者を紹介します

千葉県指導農業士・農業士とは、農業者として意欲をもって農業に取り組み、地域農業集団でリーダーを務めた方や農業後継者を養成している方を千葉県知事が認証する制度です。

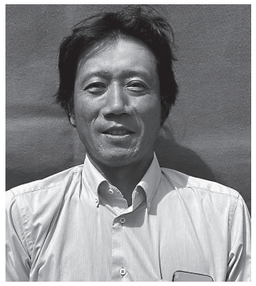
千葉地区では令和6年度は指導農業士1名が、令和7年度は農業士2名が新たに認証されました（写真参照）。皆様の今後一層の御活躍を期待します。

令和6年度に認証された指導農業士

藤田　智さん
（市原市果樹）

市原市でなしを栽培し、直売をされています。

令和7年度に認証された農業士


花見　健太郎さん
（市原市露地野菜）

市原市で新規参入し、ブロッコリー、キャベツ等を栽培されています。

金子　卓矢さん
（八千代市施設野菜）

八千代市でUターン就農し、いちごと水稲を栽培されています。

令和8年度 農業経営体育成セミナー受講者を募集します

農業事務所では、就農間もない青年農業者を対象に、農業経営体育成セミナーを開催しています。

受講期間は3年間で、土づくりや病害虫防除など、営農に必要な知識や技術を学びます。

また同時期に就農した仲間や先輩農業者と、世代や営農品目を超えて農業者同士の交流ができるのも、大きな特徴です。

令和8年度は、5月に開講予定です。詳細については、農業事務所までお気軽にお問い合わせください。

座学の他、現地でも演習します（写真は土壌について）

環境にやさしい農業に取り組んで「みどり認定」を受けてみませんか？

みどり認定は、「環境負荷低減」を図るための事業活動に取り組む「計画」を認定する制度で、様々な国庫補助金の採択において優遇措置を受けることができます。

【対象となる取組例】

①土づくり、化学肥料・化学農薬の使用低減の一体的な取組（ちばエコ農業や有機農業、エコファーマー等の取組）、②温室効果ガスの排出量の削減（水田の秋耕、施設栽培でのヒートポンプ等の省エネ機器の導入等）、③その他（バイオ炭の農地への施用、生分解性マルチの使用等）。

【申請・問合せ先】
企画振興課
043（300）1985

県HP

〈地域の篤農家紹介〉

スマート農業で生産性を向上させる
～千葉市 鳥海 薫さん～

【効率的に作業をする工夫】

千葉市若葉区中田町で水稲33haを栽培している鳥海薫さんは、スマート農業技術によって、農作業の効率化、身体の負担軽減、農業経営管理の合理化による生産性の向上を実践しています。労働力は、本人、後継者2名の3名で、繁忙期にパート1名を雇用しています。

【コミュニケーションが重要】

田植え機やコンバイン等の操作中は、インカム（無線通信機器）で作業の進捗をお互いに連絡し、次の作業の段取りをして、作業の効率化を図っています。

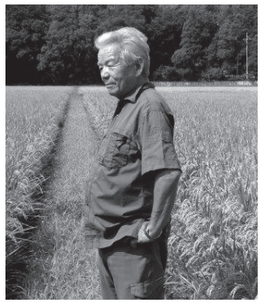
【生育予測アプリとスマート農業の機械の利用】

生育予測アプリ「でるた」を利用し、出穂予測日から畦畔の除草、カメムシ防除の作業の優先順位をほ場ごとに決めています。

平成28年に、水田の1筆ごとの収量を把握し、そのデータを次作の施肥設計に生かすために収量コンバインを導入しました。現在も、ほ場ごとの収量を確認し、翌年の施肥計画や乾燥効率の向上に役立てています。

カメムシ防除の農薬散布作業の負担軽減のためにドローンを使用しており、操作に必要な知識・技術は、後継者と2人で習得しました。

このようにスマート農業に取り組み、谷津田（山に囲まれた水田）でも収量と品質を高い水準で維持し、千葉市の水稲農家をリードしています。



収穫を控えた水田を眺める鳥海さん

〈未来を担う若手農家紹介〉

地域に愛される直売経営
～八千代市梨業組合 設楽 公洋さん～

設楽公洋さんは、八千代市梨業組合に所属し、なしを栽培しています。スポーツトレーナーや八百屋、バックパッカー等、多彩な経験を経た後、30歳で就農し、令和7年に就農10年目を迎えました。

【市場出荷から直売へのシフト】

大叔父がなし栽培を始め、先代までは市場出荷を中心としていましたが、公洋さんは、住宅に囲まれた畑の立地を生かそうと、畑で直売できる環境を整備しました。また、近隣住民へのPRとして、ホームページの開設、チラシ配り、のぼり旗・看板の設置を行ったことで、徐々に地元での知名度が向上し、現在、梨の直売比率はほぼ100%となりました。

【地元に根差した直売所へ】

設楽農園では近くの小学校と連携し、体験学習の受け入れをし、食育に貢献しています。

また、春にはたけのこ、秋にはらっかせいの販売を行い、長期間お客さんに楽しんでもらえる工夫をしています。

【今後の展望】

今後も安定した生産を維持していくために、古い樹の改植を進めています。また、現状の面積で最大の利益を得るために、収量の多い品種や、病気・生理障害の少ない品種への更新にも取り組んでいます。将来に渡り、地元においしいなしを提供していくために日々こまめな管理に励んでいます。

地域へおいしいなしを届ける設楽さん

〈今は寒いけれど…猛暑対策〉

高温に負けない稲づくり

近年、夏の猛暑により、これまでの栽培管理では高品質な農作物の生産が難しくなっています。また、体温を超える気温になることも多いため、事前に作業時の高温対策を立てましょう。

◆高温で稲はどうなる？

地球温暖化により、稲の生育期間に当たる3～8月の平均気温は上昇傾向です。その結果、生育が早まり、追肥、病害虫防除、収穫等の管理もあわせて早める必要があります。特に、出穂期（4～5割出穂した時期）は4年に1日のペースで前進化していると報告されています。

◆高温下での稲がどうなるのか詳しくみてみましょう

①生育前半（幼穂形成期まで）の生育が過剰となる…移植後に高温で推移すると稲の分けつが旺盛になります。結果として籾数が増え、籾へ移動する養分の割当が少なくなり、千粒重の低下やくず米が増加する原因となります。

②稈が伸長し倒伏しやすい…出穂期前50～4日の日最低気温が高いほど、稈が伸長する傾向があり、倒伏を助長します。

③高温登熟障害が増加…出穂期後20日間の日平均気温が26℃を超えると基部未熟粒や背白粒などの白未熟粒が発生しやすくなります。また、出穂期前7～5日の葉色が淡い場合に発生が助長されます。

◆対策はどうしたらよいか？

決まった時期に管理するのではなく、稲の生育を都度確認して管理するのが重要です。県が発行する生育情報や水稲生育予測システム「でるた」を参考にしてください。高温登熟障害対策として、千葉市で出穂期7日前に追肥する試験を実施したところ、白未熟粒の割合が減りました。猛暑対策は人にも稲にも重要です。

「令和2年千葉県フィールドノート　温暖化が水稲に及ぼす影響」を参考に記載

「でるた」にアクセスする二次元コード

農作業中の熱中症を予防しましょう

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。

◆予防のポイント

【暑さを避ける】

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業

【こまめな休憩と水分補給】

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給

【単独作業は避ける】

複数名で作業をする、時間を決めて連絡を取り合う

【熱中症対策アイテムの活用】

身体を冷やす

〔ファン付きウェア、ネッククーラー〕

暑い時間帯の作業等が避けられないときに活躍

一人作業の備え

〔ウェアラブル端末、応急セット〕

やむを得ず一人作業をする際のリスクを回避したいときに活躍

環境改善

〔ミストファン〕

作業場を涼しくしたり、休憩の質を高めたいときに活躍

◆そのほか、日々の体調管理など熱中症に負けない体づくりをしておきましょう。

「農林水産省「『熱中症対策パンフレット』抜粋」